

令和3年12月17日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 11時55分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 渡辺 優子
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	山内 みどり

- 6 出席者氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 教育総務課長代理 | 田中 明夫 |
| 生涯学習課長代理 | 竹本 直昭 |
| 教育総務課指導班長 | 安藤 通晃 |
| 教育総務課教育総務班長 | 大木 健司 |
| 教育総務課教育総務班主査 | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 3名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

1 開会宣言

(教育長) 令和3年度12月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 12月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(野谷委員) 教育長事務報告で11月29日に経済産業省「未来の教室実証実験」「二宮町の部活動の受け皿としての地域スポーツクラブの創出と地方活性への可能性の検証」については、意義を感じて共感して期待しているのですが、現在はどうのような状況なのでしょうか。

(教育総務課長) 令和5年度から中学校の部活動のあり方の中で、土日・休日の部活動について、地域を主体に移行していくようにと文部科学省から通知がされています。議会でもご質問いただいておりますが、文部科学省の考えは、土日は活動の指導に従事したくない教員が出勤しなくて済むような体制づくりをしたいという働き方改革が主な話です。現在も二宮中学校二宮西中学校で地域の方にご指導していただいておりますが、例えばサッカー部は、地域のサッカークラブなどで、部活動ができるようなイメージです。ただ、課題もあり、地域のサッカークラブは有料です。今まで部活動は無料でしたので、費用負担をどうするのかを文部科学省は示しておりません。一方で、市町村負担と保護者の負担には、一応資料では言及しています。そのため、文部科学省が言っていることに対して、今まで無料だった部活動が有料に変わることに、保護者の理解がえられるのか、全国の自治体が非常に困惑している状況です。それに対して、経済産業省がこのような事業やっている理由は、地域のサッカークラブや総合スポーツクラブなどを一つの産業として育てていかないか、その可能性を実証しようとするような事業をやっています。二宮町にラビッツクラブというスポーツクラブがあり、このスポーツクラブとJT Bが連携をして、二宮町でそういった取り組みができるかどうかを実証しようということ、二宮中学校の体育館をお借りして、毎週日曜日の夕方にフットサルをやっています。部活動と同じ活動であればいいんですが、今回はフットサルでやってみようということ、毎回、6人から10人の生徒が参加しています。土日の部活動がどうなったらいいと思うか、どんな活動がしたいか、来ていただいている保護者の方に受益者負担についてどう考えるかと、年度末にアンケートを検討しています。また、運営に対する費用をどう賄っていくのかも実証してい

ます。例えば、近隣の企業や商工会等を通じて、ふるさと寄付金のような形で、寄付をいただけるのかなど、持続可能な運営資金の調達方法も実証して、現在2回目までの実証が終わり、少しずつ参加者が増えています。今年度いっぱいまで終わりになる実証事業ですので、経済産業省からすれば、文部科学省が言っている部活動を休日だけ地域に移行することは、平日の指導者と休日の指導者が変わってしまうこと、中体連の大会は休日に開催されるので、どうやって大会に参加するのかなど、色々な問題があります。経済産業省としては、平日も含めて全部地域が担っていけるような産業を育てた方が本当の働き方改革になるのではないかとということで、そういった提言を文部科学省にもするので、その材料を二宮町と一緒に作っている状況です。

(教育長) 前文部科学大臣が経済産業大臣になったということも関連していると思います。もともとGIGAスクール構想を立ち上げた担当者が文部科学省に経済産業省から意見を言い、多額のお金が動いて、ICTやGIGAスクールが進んだ経緯があります。文部科学省は子どもや先生、教育のことなので、なかなか進まないそうです。部活動もそうですが、GIGAスクール構想と同じように、経済産業省の方がお金と力を持っていますので、そういった面で、実証事業に協力することで、全国で周知徹底できればありがたいな、と思い協力しています。ただ、あくまでも実証事業であり、単年度のものなので、それをしたから町立中学校の部活動が未来永劫、このような形でやっていく補償はありません。

(山内委員) 教育長報告の三鷹市の小中一貫校の視察についてですが、まずは企画して頂けたことを感謝いたします。8年前、教育委員に就いた時に、鈴木寛氏と友人である弟から、鈴木寛氏が提唱しているコミュニティ・スクールを二宮町でもやってみることを勧められました。その後、町長さんと当時の教育長さんが鈴木氏にお会いしに行き、国からの補助金をいただき、コミュニティ・スクールの勉強が始まりました。地域の方と一緒に三鷹市へ視察にも行きました。三鷹市の学校では地域の方と学校が様々に融合していて、オープンな図書館など沢山の気づきを頂きました。実際に見てくる必要があると思います。ぜひとも、現場の先生方にも小中一貫校教育やコミュニティ・スクールの状況を見に行っていただきたいと思います。小中一貫カリキュラムの研究など中身的には既にたいへん充実し、いつでもスタートできる状況ですが、先生方の中で具体的な疑問点も出てきていると思います。先生、地域の方の目で視察をすることの予算を計上して頂ければと思います。地域の方からも小中一貫校教育はその後どうなっているかご心配の声を聞きます。視察などもして、活発な話し合いに進んでいくといいなと思っています。

小中一貫校教育について、議会でも質問があったと聞いていますが、どのような質問だったのでしょうか。2点目は、高山村との交流についてですが、地引き網をする人がいなくなったので、途絶えそうですというのが一つの不安としてありました。先日テレビで二宮の梅沢海岸がとりあげられ、Oさんという40代の方が3年ほど前に地

引き網を継いだ、という番組がありました。高山村の知り合いからも連絡があり、二宮町で地引網がまた復活したことを喜んでいました。地域間交流は、とても大切なことで高山村の子どもと二宮町の子どもが、Zoomなど色々な工夫で良い交流ができると思いますので、絶やさずに継続していきたいという要望です。

来年の成人式が開催できることになり、よかったですと思いました。去年は寂しい思いしたことと思います。自主的にやるというお話を聞いていますが、教育委員会はどのような協力をするのでしょうか。

(教育長) 小中一貫教育は報告協議事項の中で資料と一緒に説明をさせていただきます。

(教育部長) 高山村との交流の方向性について、詳細は把握していません。ただ、新型コロナウイルス感染症の流行で、去年と今年が中止になっています。担当の地域政策課にも確認し、情報提供をしたいと思います。子ども同士の交流というのは、地域にとっても必要なことだとは思っています。

1年遅れの成人式は、この前の成人式の実行委員だった方が、実行委員会を作り、有志の方、議員さんの協力をいただき、1月8日に開催することを聞いています。教育委員会は、後援という形で、協力をさせていただいております。マグカップを送ったときにご案内を同封したりなど事務的なところで協力をさせていただいております。実行委員会を中心に内容などを考えて準備してきているので、無事ラディアンで開催できればと思っているところです。

(山内委員) 後援という形で協力をしていることですか。

(教育部長) そうです。

(山内委員) クラウドファンディングもやっているようですね。

(教育部長) それも聞いています。

(山内委員) 実行委員会の方は分かりませんが、21歳の方と話をしたとき、自分たちはこういうことをやるんです、町は何もやってくれない、というニュアンスのフレーズがありました。彼女の言い方としては、成人式ができなくなったんです、と言いたかったのに、その場にいた一般の方は、かわいそうにという反応で、教育委員会は何もやってくれないから自分たちでやるんです、というような発言を聞きました。8月に延期してそれぞれの中学校で開催しようと準備をしてきましたが、こちらも新型コロナウイルス感染症が押し寄せてきたので、やむなく、Zoomなどでできることをしました。本当は、みんなを着飾って集まり、喜び合うことができなかつた残念な気持ちは本当によく分かりますが、ただ、教育委員会としては、1月の開催について非常に悩んだ覚えがあります。開催日の6日前に通達されたのが、どうかという意見もあり、他の自治体でも色々なやり方がありましたけれど、もしラディアンで開催して、クラスターが起きてしまう危険性がありましたし、命とイベントとどちらを重くとるかということを考えて決めた教育委員会の決断は間違っていなかったと思います。

今後に活かすために、色々な考えを持った若者たちと時間をかけてよく話し合っていくことが大切だと感じます。町、教育委員会の気持ちが伝わるように、またこれから選挙に参加していく方たちにしっかりしたものを見方を育てることが年長者として、教育者としての務めだと思います。

(教育長) 代表者の方とお話しをしましたが、行政は条例や規則があるのでどうしてもできることとできないこともあることを話し、担当職員もここに至るまでに、何度も話し合いをし、できる限りのことをしました。できる限りの協力をしていることが見えてこなくて、町は何をしているんだとなり、担当職員が一生懸命頑張ったんだけど、そういうふう一言でまとめられてしまうのはちょっと残念ですよということを言わせていただいてしまいました。最終的に1月に、ラディアンホールの使用に対しては、例規に基づき教育長判断で使用できることになったところです。次の成人式も翌々日に迫っていますけれども、遺漏がないようにしていきたいと思います。成人式という名称は最後となり、次回は20歳のつどいなど名称が変更になります。

(山内委員) 今回のことからやはり世代が違えば、考え方も感覚も違って、当人たちはマグカップを貰うよりも直接会いたかったということだと思うんですね。成人祝賀会に限らず、実行委員さんと教育委員会の話し合いを密にしていくといいなと思います。新型コロナウイルス感染症の流行がなければ、町の職員と新成人の方が一緒に食事をしたりしながら、町の職員はこういう人なんだ、役場に勤めてみたいなとか、そういういいコミュニケーションのとれる場になるかと思います。私の職場の大学でも入学、卒業のコンパなどで学生たちとのコミュニケーションが非常に大事です。若い人たちの気持ちがこのコロナ渦にあって不安定さもあるので、教育委員会も若い人たちが、どのような感覚を持っているのかをすくっていく必要があると思います。たくさんコミュニケーションをとれるような形に、来年以降していただければありがたいです。

(教育部長) 生涯学習課と実行委員会は、こまめに連絡を取り合い、話し合いをたくさんし、進めてきました。それでも十分でなかったのは重々承知しています。今回の反省を踏まえて、次回以降の成人式など他の行事についても開催していきたいと思っています。持てる時間を最大限に活用し、実施しているので、少しでもご理解いただければありがたいと思っています。

(教育長) 未曾有の出来事ですので、新型コロナウイルスに関することはまだまだ問題が起きてくると思います。新しい変異株も出て、県内の学校では学級閉鎖などが現在起こっておりますので、新しい生活様式にのっとり、健康で安全に子どもたちが楽しい暮らしをおくれたらと思っています。

(渡辺委員) 教育講演会が夏休みの開催から延期になり、1月7日の開催になりましたが、楽しみにされた方もいると思うので、たくさん来ていただきたいと思います。当日の託児は先着順ですが、何人くらい受け入れができるのでしょうか。また、

冬休みなので、託児をするほどではない低学年の子どもは一緒に入れないのでしょうか。

もう1点は、先ほど教育長がおっしゃっていた子どもたちの人権と未来を考える会の方々の要望書について、免疫力やワクチン、マスクを外す機会など様々なことが言われている社会状況ではあります。学校では、そのバランスがとても難しいと思いますが、実際に子どもたちにマスクを少し外していきましょうという方向性で、校長先生方と話し合いをしているのか、もしくは、まだ難しいのか、現場はどうなのでしょう。

(教育総務課長) 例年のはぐくみ塾では、教職員が大体100人ぐらい参加されてきました。今回、1月11日が始業式のため、直前の準備に追われている日でもあるので、教職員の参加が少し減ると思われます。ホールの定員が500人で、広く参加を募っているので、たくさん来ていただきたいと考えています。託児は、例年同じグループに頼んでいます。他の催しの様子を見てみると10人ぐらいが限度な感じです。

(渡辺委員) まだ受け付けていますか。

(教育総務課長代理) はい。まだ余裕です。

(教育総務課長) 低学年のお子さんも一緒に来ていただいて構わないと思います。

(山内委員) 親子室で保護者と一緒に聞くこともできると思います。

(教育長) マスクのことを校長会で話題にしたとき、体育や校外学習など互いの距離をとれるところでは、一斉に外すような言葉がけを先生がしていると聞いています。教室では外すのは難しい状況で、給食は皆同じ方向を向いて、黙食をしている状況です。

(教育総務課長) この件は本当に難しい問題で、熱中症や酸素不足のことも言われているので、私もすごく気持ちがわかります。一方で文部科学省も厚生労働省の医師の知見を集めて、ガイドラインを出していますので、それに基づいて活動しなければなりません。また、マスクしないことに恐怖を感じている方も当然いらっしゃるのので、どちらの意見の肩も持てないとなると、文部科学省が出している学校の新しい生活様式に即した活動を元に、基本はマスク着用の指導をしましょう、だけど、体育や登下校、密を避けられるような広い場所での活動は、できるだけマスクを外せる時間を設けようと呼び掛けています。特に小学校低学年は、自分で判断ができないので、先生がマスク外していいよと呼びかけるなどの形になっています。当初は新型コロナウイルスの予防方法が分からない部分もあり、マスクを外すなんてありえない、という意見もありましたが、今は外せる時は外そうと学校も少しずつ試行錯誤しながらやっています。

(渡辺委員) マスクをしたい人、したくない人のことは、考え方がそれぞれあるので、お互いの考えは大事にしないといけないと思いますが、文部科学省のガイダンスにのっとなっていることも理解できます。今後、子ども同士でマスクをするしないとい

う会話も耳にするとと思うので、どちらかでない駄目ではなく、お互いに理解し合うことも学校で作れていければいいなと思っています。

(山内委員) 二宮中学校の体育祭の練習のとき、校長先生からマスクを外そうと呼びかけがあったと聞きました。生徒が喜んでいたら聞きましたが、マスクを外すときは先生方が一致した考えで実行されていると感じます。マスクするしないは、世界的に今後を考えている途中なので、行事を含めて新しいやり方を生み出していき、話し合ってお互いを理解し合うことが大切だと感じました。

(岡野委員) 英語の担当者会議の内容についてお聞かせください。将来何かになりたいという内容のことを、英語の授業でご覧いただくということですが、ここに二つのスイッチがあるのかと感じました。英語で自分の気持ちを表現する、間違ってもいいから、英語で表現してみるスイッチと、本当に何になりたいというキャリア視点のスイッチと二つ含まれているのかなと感じました。中学校の子どもたちの意識調査をみると、将来夢があるとか、そういう意欲があって、そういうところと関連づけて、進路のキャリア教育に近い内容を視野に入れていただけると良いのかなと感じた次第です。英語の授業とキャリア教育を関連させたという事例で、国際感覚を養うためには、英語の授業の中で様々な国の人と交流することは有益であると思います。ただ、それはあくまで英語というキーワードを通じて、国際感覚などを磨くという内容だというふうに感じました。そうではなく、将来本当に自分がどういう道を生きていくんだという進路のキャリア教育を英語教育に掛け算してやっていく取り組みは、前向きで戦略的な取り組みと感じたので、そういう視点も含めて、取り組んでいただけるとすごく良い効果が出るのではないかと感じました。

(指導班長) 他教科の関わりもかなり重要になってくるかと思いますが、例えば総合の時間で、誰と出会うかによって、何になりたいというより、どう生きたいかというところも、かなり重要になってくるかと思いますが。そういった出会いは、何か新しい経験というところで他教科の中でも取り入れることができたかなと思っています。小中一貫教育の中で、中学生が小学生に出会うということも、自分のキャリアを築く上での新しい気づきにもなっていくと思いますので、小中連携や他教科との関わりで、英語教育が何か関われたらかなと思っています。

4 付議事項

5 報告・協議事項

(1) 小中一貫教育の方向性について

(教育部長、教育総務課長) 小中一貫教育の方向性について資料に基づいて説明。

(岡野委員) 今回示していただいた一番最後に2040年までにという数字が具体的に

設定されたのは、目標設定としてはいいことだと感じたので、とても感謝しています。時間が経過すると、軌道修正は多分あると思います。人口予測は、流動的な要素があり不安定なので、適宜仮決めし順次、軌道修正しながら進んでいくやり方にすべきだと思います。具体的な中身をどうやって進めていくかは、町民の方と一緒にという文言が入っていたので、皆の意見を酌み取りながら、60点でも合意性の高い方向性をみんなで話し合っ、それぞれの地域間の意見を町民の中で意見交換をしていただいた上で決める、という合意形成の方向がいいのかなと感じました。

制服の話ですけど、先ほどの英語の授業のキャリア教育もそうですが、小中一貫教育のパーツとしてとらえて組み込むことが必要なのかなと感じます。例えば、4・3・2制にする場合、最後2年間でキャリアアップ重視型教育に切り替えるんだとなると、その2年間で将来何になりたいかを考えることに費やして、そのための下地を真ん中の3年で作っていくことをビジョンの中に組み込むべきだと思います。制服にしても、5年生から気持ちのスイッチを切り替えるために、あえて制服を取り入れていくんだという考え方もありますので、そういった意味で一つ一つの検討アイテムを小中一貫のパーツとして考えていき、そこにパワーを順次つぎ込んでいくことが必要なのだろうなと感じています。小中一貫はおそらく4・3・2制がベストだと思いますが、その裏付けを自分たちの中で考えることが必要かなと感じます。小中一貫教育では4・2・3制や5・4制の学校もありますが、二宮町はこういう理由で積極的に4・3・2制を採用する、という強い意志を固めていく必要があると思うので、その裏付けをしっかりと考えていくことが必要だと思います。

(野谷委員) 1点目は、令和22年、2040年とそこまで踏み出してくれたことは、勇気があっていいのですが、私の試算では無理だと思います。理由は、東大跡地で約27,000㎡。二宮西中で約20,000㎡。東大跡地と二宮西中は、それぞれ一長一短あり、決めがたい状況です。広さ東大跡地は、北側が小田原厚木道路に近い、民地に近いなど様々な制約があるので、小中学校設置基準を考えると充実した教育をするためには、さらに20年以上は無理なんじゃないかな、という私の試算です。中学校の場合は発達段階から考えて少人数ではなく、一定程度の人数が必要であると考えます。施設一体型をつくる過程で二宮中学校と二宮西中学校の合体を考えたらいいのではないかと考えます。そして、最終的に2050年ぐらいで施設一体型小中一貫校を作れないかなというのが私の考えです。

2点目は、地域の方の意見を聞くことはとても大切なことですが、何でも聞いているとまとまらないです。まず、私たちの研究会の中で問題を整理してから地域の意見を聞いていくのが道筋だと考えます。

(教育長) ただ、目の前に迫っている令和5年度のスタートに向けて解決しなければならないことがたくさんありますので、これを片付けて少しでも前に進めたら、と思っております。

制服については、LGBTのこともあるので考えなければならぬのですが、5年から考えると、4年には考えていかないと遅いかなと気がしています。実際、スカートを着用したくない、というような問い合わせもありますので、そういったことに速やかに対応できるように体制を整えていきたいと思っています。各校の校長先生からは、制服は絶対なくてはいけないものではない、ジャージやスラックスを着ても構わないと対応してくださっています。制服と決まっていると、着用しないことに対して、後ろめたい思いをさせてしまうのは気の毒ですので、制服については、しっかりと話し合いをし、決めていけたらと思っています。

(山内委員) よくここまでまとめてくださったと思い、本当ありがとうございます。町民の皆様の説明する際はもちろん、すべて町民の方にはご意見、思いがありますから、全員が一致することは無いと思いますが、文部科学省の動きや町の状況の説明をきちんとしていくことでお互いコミュニケーションをとり、町民の方にきちんと伝わっていくことが大事なのかなと思います。また、状況変化がある場合はその都度、しっかりと地区長会議などでもお伝えいただき、町民に正しくスピーディーに伝えていくことで大分変化が有ると思います。出生率が2040年に1300人という数字も見通しとして発表すべきだと思っています。また、統合という表現はプロジェクトの本質ではないと思います。

また、AグループBグループという呼び名はランク付けのように受け取れるイメージがありますので、二中グループ西中グループとした方が良いと思います。統廃合という言葉がこの文書には載っていないことは良いと思います。統廃合という響きには廃校となる学校関係者の寂しさを思わされます。細かい部分ですが、二宮町の明るい魅力ある学校づくりに向けてやっているという本来の姿が伝わる表現が使われていいなと思いました。

(教育長) 確かにABだとBが下に感じてしまいますね。私の案だと、二宮学園・二宮西学園もいいのかと思いました。二宮西中グループですが、一色小と山西小が同じグループに入ってくると、一体感を明確に出していかないと子どもたちが小中一貫校というのをイメージしてもらえないかなと思っておりまして、学校長にできる限り令和4年度の中で5年度に向けた行事や学習活動の中で一緒にできることがあったら今のうちに洗い出しをして、令和4年度の中で楽しみながら一緒に作っていただきたいということを指示してあります。例えば、自然観察を山西小の自然観察と一緒にやったらいいじゃないか、遠足についても、一色小学校では3年生と2年生は同じ方面に遠足に行っているの、山西小と一色小も一緒に行ってもいいのかと提案しています。運動会を一緒に開催するというのは難しいかと思いますが、校外学習・遠足・修学旅行などは、できるのではないかなと提案しています。教科の教材研究についても、ワーキンググループを十分に活用してお互いに分担をして協力しながらできたらと言っています。小中一貫教育を5年度からスタートするに際して、一番大きな

学校教育目標については、校長先生から将来1つになるのであれば、全ての5校が同じ目標に向かって進む方がいいんじゃないかと今すり合わせをしていただいています。令和3年度内で固めて、令和4年度に仮スタートできるように運営協議会にも合意を得ないといけませんので、決まった時にはご提示できればと思っています。令和5年度から先の矢印が点々となっているところですけど、これからまだまだ検討できる余地があると思います。中学校の合体に向けていくには、住民の合意なども必要ですし、それよりも一色小と山西小が先という認識であれば、新たに議題にしなければいけません。考えなければならぬことがたくさんありますので、令和5年度に向けて全力を尽くして小中一貫教育のスタートに向けてやっていきたいと考えています。

(教育部長) なぜ2040年を目標にしたかですが、一番の目標は小中一貫教育をやり、一体型の小中一貫校を設置する、という大きな目標にして、今までやってきたというところもあります。教育委員さんも言っているように目標をいつにするかというのを計画に位置付けなければならない、一体型をいつにする、というところだと思います。2040年や2050年という話は前からもあり、最終的に自然に町の人口や子どもの人口が減ってきて、最終的にそうなるだろうと。でも、それは目標ではないと思うんです。目標は頑張る努力して達成できるのが目標ではないかと思うんです。2040年の1300人になるかどうかは分かりませんが、施設再編課からも長寿命化計画をやったとしても、施設は20年ぐらいは持つだろう。その後は、建て替えや大規模な改修をしないと、施設を維持していけない。多額のお金をかけて、今の校舎を維持していくのか、それとも小中一貫教育の分離型をやっているの、成果を検証して示して、一体型をしていくのか。そこを一つのターゲット目標にすると、1300人であれば施設一体型の校舎が建てられる、という希望があります。一つの目標になるかと思いい、この2040年という年をお示しさせていただきました。もしかしたら前に5年もあるかと思いましたが、『までに』を強くいただきました。この後、政策会議で協議していかないといけないので、この方向で進んでいいか、それについてご意見をいただきたいというのがあります。

(野谷委員) 子どもたちの人数を保障する校舎・校庭の広さは、絶対必要です。人口予想は非常に難しい問題です。国立社会保障人口問題研究所のデータからだと、2050年になってしまうかなという判断です。

(教育総務課長) 航空写真から面積を出すと、二宮西中や一色小は2万2000㎡は、学校基本台帳に載っている面積なので、もしかしたら実測は少し違うかもしれません。東大跡地は、小田原厚木道路のきわのB地区C地区を足すと2万8000㎡の面積があります。国立社会保障人口問題研究所だと、2040年に1100人となっています。人口ビジョンだと1500人を超えていて、間が400人あり、国立社会保障人口問題研究所の方がよりシビアで、人口ビジョンは出生率も上げて、社会増減の減をなくするという人口を減らさないようなビジョンなので多いわけです。人口はまだわからないので、検証も含め

で示しながら、やっていくことをご承知いただければと思います。

(渡辺委員) 1点目は、2040年までにどこにどんな規模の学校を作るということをしっかりと示すことが大事だと思いますので、今ここで2040年までにという言い方もいいと思います。着々と場所を決めて規模を決めていき、5校が統合する過程を見せながら、最終的な形を着々と町全体で取り組んで見せていくことは、とても大事だと思います。

2点目は保護者としての感覚になりますが、今子どもを産んで15年後に中学生になったときの保護者として当事者の感覚、いつかは学校1校で、いつかは新設又はリニューアルなのか見えていても、今学校に通っているとやっぱり先のことです。最終形を示すのと同時にその過程をどうしていくのか、例えば地域に学校を残すことは大事だから学校を減らさず、統合まで維持します、しかし単級になった場合、独自に少人数学級としてしっかりとケアしますという見せ方をするのか、子どもと先生の環境を考慮して、地域の学校は減らすけれども、スクールバスを出して皆が安心して通える環境を整えますなど、その過程の見せ方によって、様々な思いが出てくると思います。両方を見せていく過程にもっていかないと同じ話が続き、結局20年何もしないで、最終的に学校1校になることは、住民感情からすると決して良いものにならない気がします。

(教育長) 全くその通りです。意見交換会の中で小学校グループには1校残してほしいと踏襲することで当初の二つに絞ってしまうことは、何か恐ろしいです。ただ、一つに統合する中での過程として、中学校から先に統合するのか、山西小と一色小を統合するのか、十分考慮して、通学路をどうするのか、今、町にあるコミュニティバスの活用を検討しながら、進めていけたらありがたいなと思っています。

(山内委員) 私も渡辺さんの意見に賛成で、この間が少し薄いかと思います。私たちの目指しているのは、小中一貫教育ではなく、小中一貫校です。施設一体型の小中一貫校を二中グループ、西中グループの2校で作ることが、この中に入ってくるのかなと思ったんですね。渡辺委員がおっしゃったように、20年の間の部分が落ちているということはないでしょうか。分離型でやっていき最終的に一校になってしまうのか、それとも、二中グループと西中グループのそれぞれで一体型小中一貫教育をやっていく時期が来るのでしょうか。

(教育部長) これまでの計画案の中でそれはあり、約10年で2校にできればと考えていました。しかし、人数・場所・地域との合意など実現の可能性が自分の中で見えてきませんでした。合意形成を取るのに、やはり大分時間が必要です。学校運営協議会の中で、まず地域をつなげて、垣根をなくしながら、学区をつなげていくことを丁寧にやっていかななくてはいけないんだろうなと思ったんです。そうすると、西中グループをつなげるのに、時間が必要で実現性がなかなか難しいと思いました。目標はもちろん必要ですが、余りにも実現の可能性がないのであれば、目標に掲げるのも難し

いだろうと思ったんです。そういう理由で具体的に書けなかったというのがあります。でも、協議過程の中の状況によっては、可能性がないわけではないと思っております。

(岡野委員) 合意形成のやり方はいくつかあると思いますが、教育委員会で案を作り、これでいかがですかというやり方と、地域の方、学校の先生などをメンバーに入れて、権限を持たせた会議体を作って、案を作り上げていくことも一つの手だと思います。令和4年に一色小の保護者に中学校選択制の周知がありますが、多分将来構想を聞かれるんじゃないかなと思います。一色小学校区の緑が丘地区や一色地区から見たら、山谷越えて、どうして西中まで通わなくてはいけないんだというのが純粋な疑問があると思います。それに答えるために将来はこういうことをやります、さらに、全部一体化にというプロセスが待っているので、途中のプロセスとして、こういう形態を取ります、という説明していく必要があると思います。この説明会はとても大事なポジションだと思うんですよ。この説明会に向けた準備委員会や勉強会が多分必要んじゃないかと思うくらいです。渡辺委員がおっしゃったような最終的なゴールと直近の姿をちゃんと見せていくことが必要なかなと思うので、まず我々が取り組むべきは、令和4年の説明会に向けて、検討会というのを続けてスタートしていくということをやってみたらどうでしょうか。

(山内委員) 部長さんのこの投げかけが、この方向性でいっていいかどうかを、今回今日ここで話し合っただけということですね。

(教育部長) そうですね。次の説明が、つなげていけるかなっていうのがあります。

(教育総務課長) 資料を作った一つの理由が、来年公共施設の再配置の見直しもあります。数年後に一体校だという楔を打っておかないと、10年後になってあの場所にこう作りたいとなると、またハレーションが起きるわけです。だから、その20年ぐらい開けて、しっかり準備をしていきたいという意味では、スタートとゴールを埋めて、間はまた考えましょうと。あまり生々しく示すと、このスタートゴールさえ決まらなくなってしまうのかなって思い、一つ一つピースを埋めていきたいなっていう気持ちも少しあります。

(岡野委員) 目標設定は、自然にそうなる結果を設定するのではなくて、自分たちで努力して達成することを目標として設定しましょうというマインドはものすごく感銘を受けた次第です。コミットとターゲットという言葉があり、想定される障害を乗り越えて達成するのがコミットで、想定外のことを乗り越えて達成するのがターゲットです。やっぱり最低限コミットするっていう意味では、具体的な数字を出して目標設定を一旦する。その時はこの数字を出した根拠の国立社会保障人口問題研究所の人口予想や出生率は、必ずセットで置き、この一行だけ来たようにしないように、必ずつけておいたほうがいいかと思います。

(山内委員) 私も課長さんのお話聞いてとても納得いきました。教育委員会はこうやりたいです、こうやりますというその裏付けとして、子どもの教育に小中一貫がいいからで、人口減るからじゃない、小中一貫やりたいから、この町の魅力としてということがしっかりありますから、自信持っていえると思うんです。2回説明に参加したときにこんなにいいと思っているのに色々なことを言われ、地域から学校がなくなることは、とても大変なことだというのが、ちゃんと理解でき、私も軌道修正しました。でも、ぶれませんという姿勢は、何があってもやはり、貫かなくてはいけないと思います。

(野谷委員) 2040年という数字は、一つ大きな示しだと思うんですけども、もう少し詰めて、例えば、ここに作ります、そのために途中で中学校はこう配置します、小学校はそこまでは維持しますなどを明確にして、町の施設の再配置の問題も考えて、もう少し具体化していかないといけないと考えます。

(教育長) 小中一貫教育は今、吉新先生が進めている分離型をしっかりと足に地をつけて根付かせなければいけません。山西小学校が先行して頑張っているので、残り4校を引っ張ってもらい、小中一貫の内容を充実させて、子どもたちが誰一人も取り残すことなく、学校生活を充実できるような組織ができるといいと思っております。

(渡辺委員) 最終形を示すこと、小中一貫のあり方、プラス、今の子どもたちが楽しく伸び伸びと学校の中で育てていることが地域に広まること、それがあれば一番いいみたいなところがすごくあると思います。今山西小学校に通っている自分の子どもたちは本当に学校楽しいと言っていて、それだけでもすごく満足で、本当に安全で地域にここに住んでいてよかったという感覚でもあるので、吉新先生のことが浸透していて、少しずつ他の学校にも広がっていることを教育委員会としても学校としても、もっと発信していく。その力を大きくしていくことも、最終形を示すと同時に、その過程の中の一つの大事なポイントになってくるというのがあります。

(教育長) 渡辺委員さんがおっしゃっていただいたことが、山西小学校のホームページに出ていますので、ぜひご覧いただければありがたいです。一色小学校では、ドローン撮影もしていますので、楽しみにしてもらえればと思います。それぞれ5校で情報発信が出来ていない部分もあり、まだまだ満足できていないこともありますので、今後検討していきたいと思えます。

(2) 温水プールについて

(教育部長、生涯学習課長代理) 温水プールについて資料に基づいて説明。

(野谷委員) 1点目は、学校の水泳授業をどこでやる、そこが一番大事です。1990年ころの話ですが、「温水プールができるんだ」と近所で水泳をやっている人がとても嬉しそうな声で、私に語っていたのを覚えています。竣工した頃はバブルの時に、

国の税収県や町の税収は右肩上がりの中でそれができました。一方で、最近では「毎年6,700万円の赤字を出している中で維持しているのは無駄だろう」という話も聞こえます。本当に忍びないけれども、学校教育のことを考えていただけるという条件付きで、やむを得ないかなと考えます。

(岡野委員) 野谷委員も言われましたが、子どものプール授業を頭に重ねるんですけど、やはり町全体から見たら、やむを得ない方向なのかなというのを率直に感じています。

(渡辺委員) 温水プールは数年前からずっと赤字が続いている状況ですし、設備の故障で休館になるなど、見ていて痛々しくなるくらい本当に維持管理が大変な施設で、なぜ続けているのだろうと思っていました。近隣の市町で新しい施設もあるので、それぞれの市町村ごとに施設を全部持っている時代ではないことを考えたら、市町村で連携を取っていき、考え方を整理していくことは、すごく大事だなと思っています。一方で、夏休みに無料で子ども同士で遊びに行けるような山西プールの現状などを見ていると、温水プールを維持するより地域のプールを使える方がいいと思います。

(山内委員) 民間への貸付譲渡というのは、かなり難しい話なのでしょうか。

(生涯学習課長代理) 平成31年度に町部局も含めて、指定管理のお話を複数の民間企業に打診したということ聞いています。いずれも、引き受ける前に不具合箇所を全面的に刷新すれば引き受けを検討する余地があるが、業者自身が施設や設備の修繕費用も引き受けなければならないので、費用負担が大きすぎると言われたというような状況があります。

(教育部長) 施設自体がいつ止まるかわからないような状態で貸付譲渡されても、途中で休業になったら利益がなくなり儲からなくなるので、施設を全部綺麗にしたその後の運用や活用は考えられますという意見です。今、体育施設で現況調査をやっていますが、その中で今の施設を修繕するだけでも数億円とかかかります。温水プールを20年間維持するとして、多額の予算をかけて今の施設を綺麗にして、リニューアルオープンするのかということところです。平成30年にアンケートや町民説明会を開いて意見を伺いましたが、参加者は利用者中心でした。でも、毎日プールに来るような方、温水プールがなければ困る方も確かにいらっしゃいました。しかし、その方たちのフォロー必要とは思いますが、毎年数千万円の経費と利用状況を比較しての判断になります。

(指導班長) 今、授業では山西プールと温水プールを半々ぐらい使っています。仮に温水プールがなくなった場合、山西プールの利用期間を広げることができれば、なんとかカバーすることができる状況です。

(生涯学習課長代理) 山西プールの開設期間は、現在は7月初旬から8月までで、7月中旬頃までは学校授業が多いです。学校との調整で、例えば9月中下旬あたりま

で授業を行うようにできれば調整ができることとなります。

(野谷委員) 平塚市などプールを持っている学校は、そういう日程を組んでいるところがあります。

(山内委員) 小中学生の水泳の授業に及ぼす影響が気になります。他の市町村では学校にプールのあるところが多いのかと思います。二宮町には海があるけど、そこでは泳げない、水泳の魅力を体験することは心身の健全育成のために必要です。ですが、山西プールを9月まで延長すればそこは解決できるとのことでしたので、温水プールの閉鎖はそろそろ潮時かと思います。

(3) その他

ー 次回教育委員会予定 ー

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

(岡野委員) 小中一貫教育で視察の話がありましたけど、視察や説明会の予算は、組み込まれてはいますか。

(教育部長) 視察の予算はあります。

(岡野委員) 視察の場所は具体的に決まっていますか。

(教育部長) 三鷹市の大沢学園が1中2小の学校で、同じような形なので参考になるだろうということで、候補の一つに挙がっています。

(岡野委員) 以前、コミュニティ・スクールという名前のもとで行きましたが、今回は小中一貫という目線になります。事前にポイントを絞って、視察先で聞きたいことを事前に検討しておくことが必要だと思います。「あそこはすごいなあ」という感想で終わらないようにしたらいいなと思いました。

(教育長) まだ相手校と調整ができていませんので、もう少し待っていただければと思います。

(教育総務課長) 清水先生に頼んで、CSや学校運営協議会の合体についても書いてあった冊子を後日皆さんに配ります。

(岡野委員) 三鷹市のパワーアップアクションプランは、夜間教育や地域と学校と保護者など誰がどんな役割を演じるかと、というシートがあります。そのシートをどうやって作ったのかを聞いてみたいです。

11時55分 閉会